

○ピレンゼピン塩酸塩錠 [内]

【重要度】★ 【一般製剤名】ピレンゼピン塩酸塩水和物 (U) Pirenzepine Hydrochloride hydrate 【分類】胃炎・消化性潰瘍治療剤 [抗コリン]

【単位】○25mg/錠

【常用量】75～100mg/日

【用法】1日3～4回

【透析患者への投与方法】腎クリアランスの寄与率、透析性より75%に減量 (5)

【保存期CKD患者への投与方法】Ccr 10mL/min以上：減量の必要なし、Ccr<10mL/min：75%に減量 (5)

【その他の報告】Ccr<10mL/minでは減量すべきかもしれない (MacGregor T, et al: Eur J Clin Pharmacol 38: 405-406,1990)

【特徴】胃酸分泌抑制作用、抗ガストリン作用を有するムスカリン受容体の選択的拮抗剤。

【主な副作用・毒性】無顆粒球症、アナフィラキシー様症状、消化器症状、口渇、排尿障害、残尿感、ふらつきなど

【F】33.5% (Vergin H, et al: Arzneimittelforschung 36: 1409-1412,1986) 26% (1)

【tmax】2～4hr (1) 2hr (Hayakawa A, et al: Arzneimittelforschung 37: 980-982,1987)

【代謝】腎・肝から未変化体として80～90%排泄される (U) ほとんど代謝を受けない (1)

【排泄】尿中回収率10% [po] (1)

【CL】263mL/min (Vergin H, et al: Arzneimittelforschung 36: 1409-12,1986) 255mL/min [iv] (1) 腎CL=129mL/min (1)

【t1/2】8～13hr (1) 10～12hr (U) 7.7hr (Vergin H, et al: Arzneimittelforschung 36: 1409-12,1986) 13.9～17.9hr (Hayakawa A, et al: Arzneimittelforschung 37: 980-2,1987)

【腎不全患者のt1/2】Ccr 30～70mL/min：14.7hr, Ccr 10～30mL/min：18hr, Ccr<10mL/min：17.3hr (MacGregor T, et al: Eur J Clin Pharmacol 38: 405-6,1990)

【蛋白結合率】12% (1)

【Vd】0.255L/kg (Vergin H, et al: Arzneimittelforschung 36: 1409-12, 1986) Vc=14L/man (1)

【MW】442.34 [塩酸塩水和物]

【透析性】25% (MacGregor T, et al: Eur J Clin Pharmacol 38: 405-6,1990)

【効果発現時間】

【最大効果発現時間】

【効果持続時間】内服：

【備考】アルカリ尿により排泄遅延が認められる (U) ガストロゼピンは販売中止

【更新日】20220926

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。